

増殖性能から見た高速炉の柔軟性

- 世界の原子力発電規模が現状の400GWe程度で維持されるとした場合にも、次世紀はじめには確認資源は消費される可能性があり、それ以前にウラン価格に影響がある可能性がある。
- ウラン燃料の価格等が高騰し閉サイクルに移行する必要性が明らかになり、50年程度で閉サイクルに移行する場合は1.2程度の増殖比*が必要になる。
- 平衡期では増殖比は1.03程度であれば持続的な燃料供給が可能である。

*増殖比：ある期間エネルギーを取り出した前後の核分裂性物質の量の比

